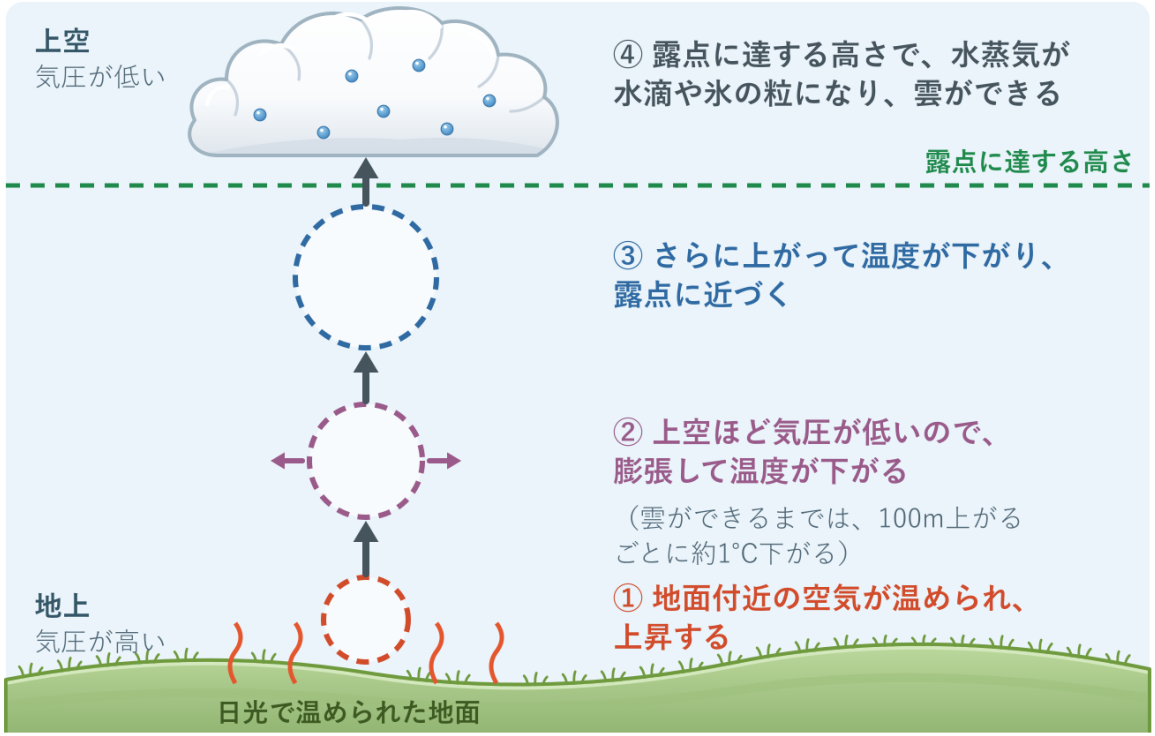
雲のでき方

空気が上昇すると、なぜ雲ができるのか

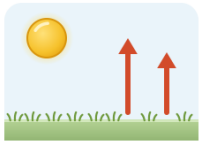
上昇する空気のかたまりの変化（模式）



雲の水滴や氷の粒が大きくなると、雨や雪となって降る。

水は、蒸発・雲・雨や雪となってめぐる。この水の循環は、太陽のエネルギーによって起こる。

上昇気流ができるとき



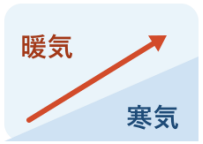
① 地面が強く温められる

晴れた夏の日など



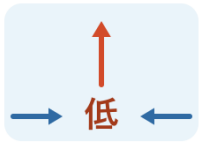
② 山の斜面にそって上がる

風が山にぶつかるとき



③ 前線で暖かい空気が上がる

寒気と暖気がぶつかる所



④ 低気圧の中心

まわりから風がふきこむ

確かめる：気圧が下がるとふくらむ

密閉した菓子袋を高い山へ持って行くと、ふくらむ。まわりの気圧が低いため。空気は膨張すると温度が下がる。

※ 図は模式。空気のかたまりの大きさや、雲ができる高さは、そのときの気温や湿度によって変わる。